第１回　子どもと親子の活動・交流拠点整備検討委員会　議事概要

日時：令和３年６月１８日（金）
１３：３０～１５：３０
場所：四日市市総合会館８階　第２会議室

１　開会

【伊藤部長】

第１回子どもと親子の活動・交流拠点整備検討委員会に集まっていただき感謝申し上げる。

四日市市総合計画の中に「子育てするなら四日市＋」という部局横断的なプロジェクトがあり、子育て世代から選ばれる、誰もが安心して子育て・子育ちできるまちづくりを進めている。

本市には、橋北地区にこども子育て交流プラザという全市的な子育ての交流の拠点が１か所ある。全市的な施設ではあるが東の海沿いに位置しているため、市の真ん中辺りに、子育て交流拠点をもう一つ造っていこうと計画を進めている。

この検討委員会では、２か所目の全市的な子育て施設の中身や、どんな施設にしていくとよいかご検討いただきたい。

２　委嘱状の交付

【事務局】

机の上に置かせていただいた委嘱状をもって、当委員会の委員として委嘱させていただく。

３　委員紹介

【事務局】

委員の紹介をさせていただく。

※８名の委員の紹介

４　委員長の選出

【事務局】

議事進行に当たり、事務局案として委員長を●●先生にお願いしたい。

【全委員】

異議なし。

５　議事等

【委員長】

それでは（１）の「笹川西小学校跡地および笹川西公園の再編について」事務局から説明いただきたい。

【事務局】

市は、１０年ごとにまちづくりに関する総合計画を策定しており、その総合計画の中で特に力を入れて取り組むものとして、重点的な横断戦略プランがある。

その中に『都市の「空き」再活用魅力増進プロジェクト』があり、少子高齢化が進む中で空きが見られる公共施設、または公園などを活用し、もう一度活躍の場を創出することで、地域の特性に合わせた魅力づくりを進めていくという方針に基づき、旧笹川西小学校と併設する笹川西公園の再編を計画している。

具体的には公園内にバスの乗り継ぎにも活用できる飲食施設の整備、子どもと親子が安

心して活動や交流等ができる拠点的な施設の整備、日本人市民と外国人市民が共に学び交流し合うための拠点施設の整備、笹川西小学校跡地の一部の宅地化というものである。

この笹川西公園の再編計画に子育て拠点施設が入った経緯は、総合計画の中で全市的な施設として、子どもと親子が安心して活動や交流等ができる拠点施設の拡充を検討していたところ、笹川西小学校の跡地利用の協議会において検討・集約された要望書において子育て施設等の設置について要望を頂いたことで、この笹川という場所で検討している。

まん延防止等重点措置が発出され「新施設の建設敷地周辺状況」については、写真で説明させていただく。

（笹川団地および、旧笹川西小学校や笹川西公園の周辺を地図と写真で示す）

今後のスケジュールについて、令和３年度では子育て施設にどんな機能を持たせるのか、皆様に議論をしていただきたい。また、この検討委員会とは別にワークショップやヒアリングを行い、基本構想・基本計画を策定していく。

【委員】

令和５年度から整備・工事と書かれているが、具体的にはいつごろ完成予定か。

【伊藤部長】

まだ流動的であるが、令和７年度の完成を目指していると関係部局から聞いている。

【事務局】

資料１の４「再編素案」の平面図に住宅地、テニスコート、運動広場、子育て施設が配置してあるが、大きさや、配置はまだ素案の状態で、確定ではない。

【委員】

この検討委員会で検討するのは、子育て施設１２００平方メートルのことに関してだけという理解でいいか。公園や多文化交流施設についてもこういう委員会があって、意見をまとめているのか。

【事務局】

どちらについてもそのとおり。ただし、隣接する広場などへの遊具の配置など、子育て

施設に関連する要望もあると思われるので、柔軟に検討していきたい。

【委員】

近くに、南部丘陵公園という、人気のある大きな公園がある。子どもたちや親子で遠足に行くのにとても良い公園だが、雨が降るとお弁当を食べるところがないので、いつでもたくさんの子どもが行けるような施設にしていただきたい。

子育て施設だから、保育園とか幼稚園の子が集まってくるのは難しいかもしれないが、屋根があって親子で雨の日でも遊べるような施設がいいと期待している。

【委員長】

子どもたちが来て、雨宿りしながらでも遊べるオープンスペースが必要だと思う。こういう大きな施設をつくる場合、自治体が細かいところまで決めていることが多いが、この施設は意見を聴きながら造っていくので、前に向かっていける提案をいただけるとありがたい。

【委員】

この笹川地区は若い方が多いのか。それとも高齢化が進んでいるのか。

【委員】

高齢化が進んでいる。もともとこの地域には二つの小学校があり、それぞれ４クラスぐらいあったが、それが２クラスずつくらいになり、数年前に統合となった。団地自体は高齢者が多く、公団も空き部屋があり、一戸建ても空き家、空き地になっている箇所もかなりある。

取り壊しになる小学校の体育館が、地区の指定避難場所になっている。今回つくる施設で、同じような人数の収容は無理かもしれないが、何かのときに避難場所として利用できるようにしてほしいという地元の要望もかなりあると思う。取り壊しは決定のことなので今回の施設には、皆かなり期待している。子育て施設の建設に反対ではないが、せっかくつくるのであれば、「いいものをつくってもらったからよかったね」という施設になればと思う。

四日市市は各地でスポーツ活動が盛んで、笹川も例外ではなく、廃校になった笹川西小

学校の体育館と笹川小学校と西笹川中学校の体育館でいろいろなスポーツ団体が活動している。

多目的ホールみたいなスペースを広めにとっていただき、広さと天井高を考えて、昼間は小さい子どもや親子で遊びに来る部屋で、夜は簡単なスポーツ（卓球、バドミントンなど）ができるスペースを考えていただきたい。

四日市市は、障害を持った方も一緒にできるニュースポーツの推進を盛んに行っている。そういったスポーツであれば、体育館ほどの機能がなくても利用できるので、一つの部屋をいくつかの使い道にできるように考えていただきたい。

【委員長】

地域の実情を教えていただくことは非常に参考になる。避難場所は絶対確保しなくてはならないだろうと思う。

多目的に使えるように可動性を持たせることも重要だと思うので、これからの話し合いで模索していきたい。地域の人口動態、年齢層や、外国の方が多いことも考えて作っていく必要がある。

【委員】

子育て拠点施設８５台と多文化交流施設の３０台分の駐車場の台数について、子育て家族が全市から来るとなるとバス乗降場はあるが、子育ての方はいろんな荷物を持つので、バスよりも車移動が多いが、この駐車場の台数で大丈夫だろうか。南部丘陵公園でも駐車場はパンク状態で、路上駐車が多い。

また、すぐ隣は住宅地で地域住民の家の前に車を停められるなど、弊害も考えられるが、ほかに車を停められる場所は検討しているのか。

【事務局】

この駐車場台数は、昨年度、各部局と一緒に素案をつくるときに算出した台数。こども子育て交流プラザの平日昼間の利用台数がおよそ２０台であり、機能を強化することで倍の４０台を見込む。併せて、飲食施設も平時３０台程度が必要であるということを加味し８５台とした。

多文化交流施設については、多文化共生サロンの利用者や地域活動の会議等の利用者を

考え３０台とした。

いずれの駐車場も専用ということではなく、合わせてこの程度の駐車場利用を想定している。

これから（西公園と東公園の間に）歩道橋をつくる予定もあり、道路を挟んだ反対側の東公園側の駐車場の活用も検討している。

子育て施設の近くにもっと駐車場があればいいという想いもある。配置は暫定なので、もっと駐車場があったほうがいいということであれば、各部局で検討するときに意見としてあげていくので、ご意見を頂きたい。

【委員】

私は県外から引っ越してきて、知り合いも少なく、子育て支援センターでいろんな方に相談に乗っていただく機会があった。

２人の育児をする中で、片方はおとなしくて、片方が活発な子どもだったので、２人を同じ場所で遊ばせるのはかなり大変で、それぞれが別の場所に行ってしまうので、公園などで遊ばせることにはかなり苦労した。

その経験から、支援センターの中で、小さい子も遊べて、大きい子も思い切り遊べるような場所があると非常にありがたい。

小学生が１人であるいは、友達と一緒に公園以外で遊んだり、本を読んだり、室内で話をしたりする場所が近所にはない。いろいろな遊びができたり、常駐するスタッフと話をしたり、料理や工作などの体験ができるような場所があると、子どもが小さいころから大きくなるまで、長いスパンを地域で安心して過ごせる場所になる。

【委員長】

小学生が活動できるコーナーや小さい子のプレイルームのように違いを持ったスペースがあるといい。また、保護者もくつろげるようなスペースがあるといい。

【委員】

子育て支援センターには、子どもを２人連れて遊びに来る方が多く、お母さんが下の子の相手をしていると、上の子を見られなくなるので、センターに来たときは、お母さんと上の子が外で遊べるように、職員が下の子を見ているという形でやっている。

園併設の子育て支援センターは、ホールでやっているので、長い廊下を渡って外に出ていかないと外が見えない。中からすぐ外を見渡せる施設だったら、お母さんに「今泣いているから帰ってきて」とか声掛けしやすい。

コロナ禍で遊び場がなく、ずっとセンターが閉所していて、開いたときにはとてもありがたいという声をたくさん頂いた。安全・安心に遊べるからセンターに遊びに来させてもらっているという声をたくさん聞くので、新しい施設はとても期待されると思う。

芝生園庭はとても喜ばれるので、芝生があるとうれしい。

【委員長】

最近は、デザイナーがつくる保育園・幼稚園が多くなってきて、流線型の目を見張るような保育所や幼稚園が多いが、安全・安心の視点が欠けていることがある。

ある保育園では、１か所に立つと園を全て見渡せるという場所がある。また、保育室と保育室を向かい合わせにつくると、お互いの部屋が見え、担任の先生が気付かなくても、向かいの先生が気付くということがある。どこでも目が届くようなつくり方で、ちゃんと見張れると何かあったときに対応ができるので、非常に重要なことだと思う。

次に（２）の「基本構想の検討について」事務局から説明いただきたい。

【事務局】

全市的な施設として、平成２９年４月に旧東橋北小学校を活用して開館した四日市市こども子育て交流プラザは、１年目から年間約４万人の来館がある。

こども子育て交流プラザは、市の東側、海側にあるため、本市では、総合計画に子どもと親子が安心して活動や交流等ができる拠点的な施設の拡充を掲げ、二つ目の設置場所として笹川地区での検討を始めた。

コンセプト案は「子ども子育て世代が、誰にも気兼ねなく、楽しく過ごせることができる場」。

少子高齢化が著しい現代においては、子育て世代そのものが減少し、子ども同士、保護者同士が交流できる場が限られている。新しく整備する子育て交流施設は、親子が気軽に利用ができ、子ども同士や親同士がつながって交流できる場、天候に関係なく、子どもが安全・安心で遊ぶことができる場、子どもたちが自由に遊んで学ぶことができる場、お母さんたちの負担を取り除くために、子育てに関する相談や、いろんな援助ができる場、そ

して子どもを一時的に預かれる場を提供していける施設をつくっていきたい。

橋北交流会館は、平成４年に建築され、平成２４年度に閉校になった東橋北小学校を活用して整備された複合施設。

１階に地域活動室、１、２階に幼児教育と保育を提供する機能を持ったこども園、３階に中小企業の方たちを支援する企業ＯＢ人材センターと会議室を備えた橋北交流施設、４階に児童館機能を持ったこども子育て交流プラザを整備した。

こども子育て交流プラザは、旧校舎を生かした形でつくられ、旧音楽室を交流室と倉庫に、児童会室だった場所を事務所に、多目的ホールだった場所をクッキングルームと多目的ホールに、教材室だったところを工作室、図書室だったところを図書室と授乳室と倉庫に改修した。

交流室は「よかパパひろば」という父親の子育て支援事業、小さいお子さんやお母さんたちが昼間遊びに来ていただく「赤ちゃん広場」、小学生の子たちが将棋などのクラブ活動、夕方から中高生の音楽活動などに使っている。

クッキングルームは、離乳食講座や小学生向けのクッキングイベントなどを実施している。利用者の声として、低学年の子たちには作業台などいろんなものがちょっと高いところが難点との声が上がっている。

多目的ホールは、ドッヂボール、バドミントン、鬼ごっこなどのスポーツ活動や、講演会、音楽会などの大型イベント、平日昼間は乳幼児だけの「すくすく広場」などを行っている。

利用者からは、勾配天井で部屋全部の天井が高いわけではないため、ボールを使ったスポーツ等は制約がある。多目的ホールは広いけれど、仕切りネットのようなものがないので、年代別やスポーツの種類で分けることができないことが課題などの意見をいただいている。

工作室では工作教室や創作活動のほか、カードゲームや卓上ゲームなど、机上でできる遊びなどもやっている。こちらについても、机や作業台が高い、壁面の収納スペースが少ない、作品などを展示するスペース、例えば、絵とかを飾るピクチャーレールがないなど、スペースを生かし切れていないという声がある。

図書室は十分な広さがあって、宿題や勉強をするスペースとしても使われている。ただ、日当たりがよく本の背表紙の色がどんどん抜けていっている。

授乳室は、図書室の奥につくられているから暗い。多目的ホールとか交流室で遊んでい

るお母さんたちの位置から、場所が遠いという声がある。

横にとても長い建物であり、事務室から図書室は死角になってしまう。もともと学校なので、貴重品用のロッカーとか、荷物を置く場所とかがない。

トイレについては、大人用のトイレの上に、重ねて使用できる子ども用の便座はあるけれど、幼児専用の便器はない。

１階のこども園に一時預かり施設と子育て支援センターがあるので、こども子育て交流プラザにその機能はない。

【委員長】

こども子育て交流プラザの運営や使い勝手はどうか。

【委員】

土曜日の朝は、父親とかの利用者が多く、パパ友をつくるところ、知り合いをつくるところとしてはいい。

小学校、中学校の子もいるので、上下のつながりもできるのではと思う。良い施設だと思う。

【委員】

ままごとでも遊べるし、多目的ホールでスポーツができたのがよかった。ただ、子ども二人を連れてのトイレが大変だった。大きい個室で親も子どもも利用できるものがあるといい。仮にそういうスペースがあっても、女性用トイレにはあるが、男性用にはないということがあるので、お父さんが一人で連れて行っても利用できるようになっているとありがたい。

【委員】

こども子育て交流プラザがある橋北地区は、周りの工場地で朝夕の渋滞がひどく、こども園の送迎も駐車場を一方通行にするなど、苦労をしている。それに比べると、今度の予定地になる笹川は道路事情的にもスペース的にもとてもゆったりしている。ゼロから建物を建てるので天井も高くつくっていただいたらいいと思うし、小学校の校舎や廊下は、冷たい感じがやっぱりどうしても消せないので、もっと温かい施設をつくれるといいと思う。

【委員長】

橋北こども園の見学させてもらったとき、保育室でなく広い多目的ホールで、とても活発に飛び回っている様子がいいと思った。

雨が降っていても、それを感じさせないほどだった。広く何もないところで子どもたちがわあっと大きい声を出し合える場所が大変よかった。

4階までの上がり下がりなど、いろいろ課題はあるが、それを乗り越えた形で新しい施設を目指していくということは価値があると思う。

【委員】

乳幼児のプログラムは、保護者が付き添って利用するが、小学生のプログラムでは、保護者は一緒にいることが難しい。四日市市の小学校の決まりでは、校区外には保護者なしでは出られないので、広い地域の小学生が参加できる案があるといい。

【委員長】

確かに考えていかないといけない点である。子育てに関する建物をつくるときに頭に浮かぶのは、自由に遊べる公園。羽根木プレーパークへ行くと子どもたちはとても生き生きしている、面白いのは入り口のところに、「事故は自分の責任」と書かれている。

行政が公共施設として公園をつくると、責任を取るのも行政となるが、プレーパークは自己責任でと書いてある。安全・安心は大事だが、時には自然の中で遊べることで子どもらしさを感じられる。

また大学生が、子どもたちのプレーリーダーをやっていて、そこを体験した子どもも大学生になると、また戻って来て、子どもたちの面倒を見てくれる。自然の中で子どもたちが自由に遊べるというのも考えてもいい。

次に先進地視察を説明いただきたい。

【事務局】

昨年度、先進地視察として、いくつか施設を訪問してきた。

新潟県新潟市の子育て交流施設「い～てらす」には、室内の低学年広場に特注でつくった木造の大型遊具がある。交流ゾーンは、外の公園と子育て支援センターをつなぐスペー

スにあり、自由に使えて、飲食も可能なスペース。学びと交流のスペースはプロジェクターとスクリーンが完備され、パーテーションで部屋を仕切ることができ、絵本の読み聞かせやちょっとした講座みたいなこともできる。また、一時預かりができる保育ルームもある。

愛知県田原市の親子交流館「すくっと」は、相談室や、子育て支援センターなどが一つにまとまっている施設。一時預かりも実施をしている。１階はラウンジにつながるテラスで飲食ができ、２階は、机とテーブルがあるラウンジ、靴を脱いで上がる全面クッションフロアの飲食が可能なスペースもある。マルチスタジオは、ヨガやダンスなどの教室にも使える。音響設備も完備され、壁の一面が鏡張りになっており、部屋の広さは、かなり大きめ。カルチャールームは調理室のような場所で、壁の２面にＩＨが５台設置され、真ん中のスペースには自由に動かせる机が置いてあり、会議や料理教室、フラワーアレンジメントなど、様々な用途で使える。相談室は３室あり、そのうちの１室はゆりかごルームというベビーカーもそのまま入っていけるなど、相談にもかなり力を入れている施設。

広島県府中市の「こどもの国ポムポム」の工作室には手洗い場もあって、窓側の壁一面につくった作品などを飾れるような作品棚があった。ラスカルジムは冷暖房が完備されている運動スペースで、有料の大型遊具も設置している。全面にクッションマットが敷いてあり、天井の高さは、７・５メートル程度あるので、運動遊具やマットをかたづけると、バドミントンなどができるつくりになっている。階段横の空間を本棚として利用し、絵本や図書を並べ、子どもが階段に座ってそのまま本を読めるようなつくりになっている。

京都府舞鶴市の子育て交流施設「あそびあむ」は、大きな一つの空間を低年齢児と少し年齢の高い子どもたちが遊べるエリアに分けている。静のエリアと書かれたところに、０、１、２歳の専用エリアというのが設けてあり、施設内に空間の仕切り（壁）がほとんどない。施設がコの字のような形になっていて、まん中の空間の中庭エリアは、外からは自由に入って来られない専用の庭になっており、大きな滑り台があり、土遊びができる。

【委員長】

創意工夫をして保護者も子どもたちも、「行きたい」、「行ってよかった」という施設にすることが大事だろう。

【委員】

今はまだ白紙の部分が多いとは思うが、理念として「子どもたちにとって安心して活動できる」の「子ども」を、どこからを対象として考えるのか。乳幼児が対象か、小学生や中学生を入れるのか。最近、日本の子育て支援でも、ネウボラの考え方が入り、妊娠期から考えていくものもあるので、それを市として想定されているか。

複合的な施設は、とにかくあれもこれもとなるが、そうすればするほど、実は使い勝手が難しくなる。

【事務局】

こども子育て交流プラザは、橋北児童館を前身としているが、児童館と子育て支援センターの機能を併せもっている。新施設も同様に、両方を足し合わせたような施設にしたいと思っている。

笹川地区は、立地的に高校生がたくさん来る地域ではないという印象があるので、小学生か中学生までだと思っている。

メインターゲットとしては、０歳からだいたい小学生ぐらいまでを念頭に入れて議論をいただきたい。

【委員長】

子育て支援では、子どもの居場所が問題になる。小さい子どもでも、中学生になっても「行ってみたいな」と思える場所、連れて行った保護者が「子どもが一生懸命遊んでいてくれるから、ちょっと休めるな」と思える場所が、大事だと思う。

【事務局】

こども子育て交流プラザは、９時から２１時まで開館している。ただ、職員が常駐しているのが９時から１９時までで、小学生は１７時半になったら、もう帰りましょうと案内している。その後は、中高生が使えるように１９時までは職員が常駐している。中高生の居場所は、とても大事だと思っており、居場所機能も補完していきたいと考え、橋北交流会館は、そのような運営をしている。

【委員】

私は「半径５００メートルの幸せ」と言っているが、子どもがいる家庭においては、身近なところに子育て支援施設があることが大事である。市がやる以上、子育て施設の中心的なものをつくっていくときは、エリアの問題という市全体のバランス感、特色などをもう一度見直していく必要がある。

舞鶴市のあそびあむは、大人も子どもも遊ぶというコンセプトで、椅子を置いていないので、大人も遊ばないといけない。

それがなぜできるかというと、そうでない施設があるからで、保護者がゆっくり座って過ごせる子育て支援センターが別のところにある。

中学生の居場所も当然あればいいと思うが、すべての施設がそれをする必要もないし、大きい視点でより先鋭化し特色が出てくると面白いなと思う。

せっかくなので、市全体の子育て支援やバランス感をしっかり考えるとよい。

【委員】

兵庫県の西宮市は、子育て支援センターを市の真ん中につくったら、想像できないぐらいに人が来て、土日には足の踏み場がない。西宮市は南北に長く、住民から「あそこだけいいじゃないか」と言う声が出たので、関西学院大学と武庫川女子大学に子育て支援センターを市が委託して設置し、バランスを取ったと聞いた。市直営で全部できるわけではないが、そういうときのバランス感は、大事である。

【事務局】

四日市市の子育て支援センターは、全市的にある程度バランスよく配置されている。

ただ、児童館は、もともと人口が多かった海沿いに３館が立地し、こども子育て交流プラザも海沿いにある。

笹川地区は、立地的にも非常にいいということで、この計画が進んでいる。

【委員】

子育て支援センターは、未就園児が対象なので、夏休みになると、上の子が幼稚園児の場合、下の子も行けなくなる。

子育て支援センターは０、１、２歳の未就園児が安全に遊べる場の提供なので、幼稚園児さんとか上の子が遊ぶものは限られているので、幼稚園児なども、一緒に遊べる場があるといい。

【委員】

子育て支援センターで小さい子から大きい子までがふれあうことはないかもしれないが、大きい子がやっていることを見ることで、小さい子が吸収して成長していることがあると感じる。

また、遊具が豊富でなくても、自然のもので遊び込むことがあり、草滑りをしたり、駆け上ってジャンプをしたり、いろいろな虫を見つけたりといった遊びができる場所だといい。

【委員長】

つくられた遊具だけではなく自然の中でも遊んでいくと、バランス感覚が持てるとか、良いところがたくさんあると思う。

【委員】

園庭のある保育施設と違い、ビルの中にあるような子育て支援の場合、自然の関わりや外遊びがないというのが、一つの弱点である。

岡山市子どもセンターやあそびあむの横にはプレーパークや公園がある。公園があるのが前提となると、野外と室内の一体型というのを検討してもいい。

四日市市の自然は多いのか。

【事務局】

適度に自然はあり、大きな公園から運動公園まで、比較的多くある。西のほうには、キャンプ場や山・川もある。

【委員】

この笹川は東と西の真ん中ぐらいで、東側は結構緑が少なく、子どもが動ける範囲だと完全に町中のようだ。ただ、車で少し西のほうに行くと、すぐに自然がある。

【委員】

園庭に、あえて自然の森をつくったり、築山をつくったり、水を流すような環境をつくっている園もある。

大阪の河内長野市の「あいっく」は、療育（幼児健全発達支援事業）、子育て支援（地域子育て支援事業）、家児相（家庭児童相談室事業）がワンストップで、一つの場所で完結する。

多機能の「多機能」をどう捉えるか、子どもの育ちなのか、子どもの福祉なのか、両方を兼ねるのか、議論の俎上に載せてもいい。

【委員長】

人的パワーが大事だといつも思う。

保育士の資格は、もちろん一つの基準にはなるが、もう少し広い視野で、子どもに寄り添い、同時に保護者の気持ちをしっかりと受け止められることも必要。

初めのころ、子育て支援センターには、保育園に勤めていた方がいるということが多く、子育て支援がいったい何かというのがよくわかっていないこともあり、保育園の延長のようだった。

幅広い人材というか、地元の大学生や地元の方を巻き込んでいくとつながりも出てきて、人的パワーとしてもよい。

子どもが地域とのつながりも見て育つというのは、保育園と違う良さがある。

【委員】

ハードの話も大事だが、運営や継続そして、この地域を担うという意味では、ソフトの部分、人材の育成というのは非常に大事。

名張市は、ネウボラをかなり熱心にやっている。保健師さんが「うちの子育て支援は、高齢者対策もある」と言っていて、地域の高齢者の方を子育て支援に巻き込んでいる。

岡山市の子どもＮＰＯは、大学生のプレーリーダーに時給を払っている。中には就職する学生もいる。

舞鶴のあそびあむは、施設をつくっておしまいではなく、ＮＰＯを運営面で立ち上げ、有料化し、そのお金をＮＰＯの活動に充て、恒久的に財源も確保しながら進めている。

【委員長】

「他がやったからやる」ではなく先駆的に取り組むことが大切。

【委員】

雨の日に力いっぱい遊べる施設は、意外となく、四日市市だとこども子育て交流プラザくらいしかない。

旅先の施設で、大型遊具が３階建ての建物全体に入っていて外にも公園があるところがとても楽しかった。室内でいっぱい遊べるようなところがぜひ欲しい。

【委員】

北九州の「元気のもり」は子育て支援のディズニーランドだと思う。ヤオハンの跡地で駅から５分で行け、２００円で１日遊べる。

今、行政で人を集められる施設は、図書館か子育て支援施設だろう。せっかくなので、希望やニーズに応えられるようなものになったらいいなと思う。

【委員長】

子育て支援で、子どもたちとかお母さんたちの動きを見ていると、場面場面で息を抜いているときがある。子どもが遊んでいるときにお母さんがぼうっとしている、子どもが次の活動までの間ちょっとぼうっとしている、そういう空間、時間もとても大事だと思う。

それではだいたい意見は出たかと思うので、次回はもう少し違ったテーマでやっていくことになる。

以上